

とうきょうすくわくプログラム活動報告

●クラス : すみれ組 1 歳児

●日時 : 令和 6 年 4 月～10 月

1. 活動テーマ

*テーマ 「自然」

*テーマの設定理由 : 戸外で自由散策をする中で、花を摘んだりダンゴムシに興味を持っのぞき込んだりする姿が見られた。また、雨上がりには葉っぱに触れて「つめたい」という言葉も出てきていたので、季節ごとに様々な自然物に触れ合うことで更に子どもの興味の幅が広がると良いと思い取り組むことにした。

2. 活動スケジュール : 遊歩道や東公園での自由散策の機会を多く設ける。

散歩バッグを準備して花や木の実を拾っていれられるようにする。

子どもの小さな発見やつぶやきを見逃さずに共感して一緒に楽しむ。

3. 活動の為に準備した素材や道具、環境設定 : 散歩バッグ

4. 探究活動の実践

*活動内容 : 遊歩道や東公園に散歩バッグを持って行き、タンポポなどの花を摘んだり、どんぐりを拾ってバッグに入れて持ちかえる。花の名前を知らせたり、どんぐりにも大きさや形に違いがあることを伝えて興味が持てるようにした。また、バッタやダンゴムシなどを捕まえて保育者の手にのせて子どもによく見えるようにした。

*活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり



植物

子ども「きいろいおはなあった」

保育者「たんぽぽだよ」

翌日からの散歩では子どもから「たんぽぽあったよ」と知らせに来ていた。

子ども「どんぐりあった」

保育者「帽子をかつがっているのもあるね」

すると子どもが「みどりのもあったよ」「おおきいどんぐりみつけた」と違いに気付き始めた。

昆虫

保育者「バッタがいたよ」

子ども「こわい～」と言って触れない

保育者「かわいいよ」

その後は「こわくないね」と言って触れる子が増えてきた。

5. 振り返り : 最初は保育者が「おはなあったよ」と知らせることで徐々興味を持ちはじめ、散策を重ねるごとに子どもたちから「あったよ」と知らせるようになってきた。子どもたちの興味や発見に共感することで散策活動を楽しむことができた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告

●クラス : すみれ組 1 歳児

●日時 : 令和 6 年 11 月～令和 7 年 3 月

1. 活動テーマ

*テーマ 「自然」

*テーマの設定理由 : 戸外で自由散策をする中で、花を摘んだりダンゴムシに興味を持ってのぞき込んだりする姿が見られた。また、雨上がりには葉っぱに触れて「つめたい」と言う言葉も出てきていたので、季節ごとに様々な自然物に触れ合うことで更に子どもの興味の幅が広がると良いと思い取り組むことにした。

2. 活動スケジュール : 遊歩道や東公園での自由散策の機会を多く設ける。

落ち葉の上を歩いて感触や音を楽しむ。

霜柱を見つけて触ったり観察してみる。

3. 活動の為に準備した素材や道具、環境設定 : 散歩バッグ

4. 探究活動の実践

*活動内容 : 遊歩道で落ち葉の上をあるく「葉っぱ探検」をしたり、子どもと一緒にダンゴムシ探しをした。ダンゴムシが見つからず残念がっていたので寒い時期には土の中にいることを知らせた。雨上がりにも積極的に戸外へ行き、雨上がりならではの自然に触れられる機会を作った。

*活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり



落ち葉

晴れの日: 子ども「ガサガサおとがするね」「たのしい」

「今日も葉っぱ探検行こう」

雨上がり: 子ども「葉っぱ探検行こう」

保育者「お靴が濡れちゃうよ」

子ども「でもいきたい！」 *子どもの声を受け入れていくことにした

保育者「雨の日と何かちがうかな？」

子ども「おとがしないね」

「(踏んだ感触が)ふわふわしてる」

違いに気が付いて言葉にしていた。

霜柱

保育者「霜柱があるよ」

子ども「キラキラほしい」と触ってみて「つめたい」

*晴れの日・・・

子ども「キラキラさがそう」「ないね」

保育者「今日は暖かいから霜柱はないんだよ」

5. 振り返り : 気温の低い日や雨上がりにも戸外に行くことで、晴れの日との違いに気付いたり冬ならではの自然に触れることができた。保育者が答えを出すのではなく問いかけをすることで、子どもが発見や気づきを言葉にしていた。

とうきょうすくわくプログラム活動報告

●クラス：すみれ組 1 歳児

●日時：令和 7 年 3 月

1. 活動テーマ

*テーマ：「自然」

*テーマの設定理由：戸外で自由散策をする中で、花を摘んだりダンゴムシに興味を持ってのぞき込んだりする姿が見られた。また、雨上がりには葉っぱに触れて「つめたい」と言う言葉も出てきていたので、季節ごとに様々な自然物に触れ合うことで更に子どもの興味の幅が広がると良いと思い取り組むことにした。

2. 活動スケジュール：遊歩道や東公園での自由散策の機会を多く設ける。

散歩バッグを準備して花や木の実を拾っていれられるようにする。

子どもの小さな発見やつぶやきを見逃さずに共感して一緒に楽しむ。

3. 活動の為に準備した素材や道具、環境設定：スクリーン・プロジェクター

4. 探究活動の実践

*活動内容：中央公園の砂場で幼虫を見つけた時のやりとりを踏まえて、活動のまとめとしてスクリーンに花や虫を大きく映し出して見ることにした。

*活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり



中央公園で

子ども「幼虫さんいるかな？」と砂場を掘り見つけた

保育者「幼虫さんなにしてるのかな？」

子ども「ねてるのかな」「さむそう」

保育者「はっぱのおふとんかけてあげる？」

この問いかけに子どもたちは次々に葉っぱを拾ってかけてあげていた。

スクリーン上映

保育者「アリさんの足どこだ？」

子ども「ここ～」と言って触りに行く

子ども「ミミズさん汚いね」

保育者「何でだと思う」

子ども「石がついてる!」

子どもの声を受け止めながら石ではなく砂であることを伝えた。

子ども「幼虫の写真を見て先日の事を思い出し、ハンカチを持ってきて布団をかけてあげていた。」

5. 振り返り：年間を通して虫に触れ合うことで、最初は怖がっていた子も友だちが触っているのを見て触れるようになるなど 1 歳児ならではの成長が見られた。また、気候によって虫がいたり見つからなかったりという違いがあるなど様々な発見をすることができたように感じる。